

令和元年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

| 視点 | 4年間の目標 (平成28年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月9日実施) | 総合評価(3月16日実施) | |
|-------------------|--|---|--|---|---|--|---|---|---|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | <p>①生徒の学習意欲を高め、目的をもち、主体的に学習に取り組む自立した学習者を育てる。</p> <p>②生徒の自立心を育成するために、学校行事、生徒会活動等を活性化させる。</p> | <p>①学力の3要素(基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性・多様性・協働性)を育むための教育課程を編成する。</p> <p>②生徒の創造性を発揮させ、リーダーシップを育む。</p> | <p>①学力の3要素について、各教科で育むべき内容を明確にし、実現するための教育課程編成に取り組んでいく。</p> <p>①日常の教育計画の中で学力の3要素を育む教育活動を行う。</p> <p>②学校行事に関して生徒の創造的なアイデアを反映していき、達成感へと繋げていけるように努めていく。</p> | <p>①学力の3要素について、各教科で内容が明確にできたか。</p> <p>①学力の3要素は高まったか。</p> <p>②学校行事の場において、生徒が創造的なアイデアを出し、達成感を得ることができたか。</p> | <p>①新学習指導要領の解説が発表され、今後の在り方とともに、引き続き検討中。</p> <p>①「逆さま歴史」の手法を取り入れた公開授業を行い、学力の3要素を育む授業の足掛かりとした。</p> <p>②部活動紹介の動画制作について、今年度の反省や来年度への工夫に関する意見を出し合い、部長会を通して曲目やアイデアをまとめることができ、生徒会執行部と各部の連携が深められた。</p> | <p>①できるだけ速やかに、新学習指導要領の検討を進めていきたい。</p> <p>①学力の3要素を育む教育活動の具体を明確にできるよう各教科で検討を進める必要がある。</p> <p>②生徒会執行部と各部(部長会)の連携をさらに密にして、学校行事で生徒が主体的に取り組める場を増やしていく。</p> | <p>①学力の3要素を育むための実践内容を具体的に提示する必要がある。新学習指導要領に基づいた教育課程の編成を早期に行う必要がある。</p> <p>②学校行事で生徒の各組織が連携を取ったり、生徒全体にアンケートを取ったりして努力が認められる。</p> | <p>①生徒の学習意欲を高め主体的に学習に取り組む支援が徐々にできるようになったが個々の教員の力に負うところが大きく、学力の3要素を育むための組織的な授業改善が必要である。</p> <p>①新学習指導要領に基づいた教育課程の編成を早期に行う必要がある。</p> <p>②生徒会執行部がリーダーシップをとり全体に働きかけることができた。よい結果を出すまでの継続的な努力の大切さを指導する必要がある。</p> <p>②達成感は行事についてのみあるのではないことを指導し、あらゆる場面での改善を生徒自らが考えられることを目標とする。</p> | <p>①組織的な授業改善のため、研究授業を活発に行い、学力の3要素を育成する授業を構築することを目標とする。</p> <p>①進学校としてのカリキュラムの策定を行う。</p> |
| 2 生徒指導・支援 | <p>①社会性を身につけるために、基本的生活習慣の確立を図る。</p> <p>②部活動を活性化し、充実感や達成感を得ることにより、自己肯定感を高める。</p> <p>③生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。</p> | <p>②自己理解を深め、多様性を認め合うことの大切さを生徒に学ばせる。</p> <p>③ユニバーサルデザインの考え方を進め、誰にとっても居心地の良い学校づくりを行う。</p> | <p>②部活動等の運営や活動における話し合いやミーティングの場を大切に、他者理解を進めて多様性を学ばせる。ホームページや地域の回覧等を積極的に活用し、部活動、生徒の活躍を広く伝え、学校活性化に寄与している実感を持たせる。</p> <p>③教育相談担当、教育相談コーディネーター、生活指導部及びインクルーシブ担当が協同し、個々の生徒に対するきめ細やかな支援を行う。生徒一人ひとりの抱える問題に対し、個別の支援を行う。</p> <p>③掲示物等を工夫し、視覚的にわかりやすい学校を目指す。</p> | <p>②運営や活動を通して他者の存在や考えを理解し、それを自己理解へと生かしていけたか。</p> <p>③教員間の指導協力体制がしっかりと機能し、対象生徒に対する支援をきめ細やかに行えたか。</p> <p>③わかりやすい掲示物を作成できたか。</p> | <p>②学校新聞の取材、発行を通じて、生徒が自主的にインクルーシブ教育について深く理解することができた。また「自動販売機の炭酸飲料導入」については、生徒の主体的な動きを支え、学校活性化へとつながることができた。</p> <p>③教育相談担当、教育相談コーディネーター、生活指導部及びインクルーシブ担当が協同し、生徒一人ひとりに応じた支援体制を充実させることができた。認知識別の補助をするため、視覚的教材を導入し、掲示物の工夫をおこなった。</p> | <p>②学校説明会の運営補助や地域でのボランティア活動を通して、校外にも活躍の場を広げさせ、生徒自身の達成感や自己肯定感につなげていく。</p> <p>③学校行事でのユニバーサルデザインの考え方を進め、個々の生徒に対するきめ細やかな支援体制を整え、教育活動を行う。</p> | <p>②多様性を認め合うことの大切さを学校現場で学ばせることはこれからの社会に出るにあたり非常に有効であり、さらに進めてほしい。</p> <p>③校内の支援体制の充実が喜ばしいことである。さらに、個々人に目を向けて必要な支援を行ってほしい。</p> | <p>②ボランティア活動を通して自己肯定感を持ち、個々人の存在の尊さを学ばせることができた。多様性については障害者に特化してしまっただけがあるので、さらに大きな視点での学びを導入することが必要である。</p> <p>③ケース会議の役割を理解したうえで会議を開けるようになった。1つのケースについて組織的に継続して支援できるようになることが必要である。</p> | <p>②多様性そのものについての探究の精神を持ったうえでの学習の機会を設けていくことを目標とする。</p> <p>③全ての教職員が思いやりの心を持って全ての生徒を支援していく必要がある。ケース会議の継続性を保つため、組織的な対応と正確な記録、こまめに会議を持つことのできる、また、日常の会話の中で生徒の情報交換ができる職場の体質を目標とする。</p> |

| 視点 | 4年間の目標 (平成28年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月9日実施) | 総合評価(3月16日実施) | |
|----------------|---|--|--|---|---|--|---|--|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 3 進路指導・支援 | ①情報を活用し、自分の将来を設計する力を育む。 ②自分の将来に向けて、希望の進路を実現するために、よりよい選択・決定ができる力を育む。 | ①主体的に情報を得ることができる生徒を育てる。 ②情報を整理し、自己の適性を考えた進路選択ができる生徒を育てる。 | ①オープンキャンパスやインターンシップ等に積極的に参加したり、進路情報誌やインターネットなどを活用したりしながら、自分の進路を考えることができるようにする。 ②スタディーサポートや実力テスト、および定期テストの結果などや、自分の性格、好みなどをきちんと把握することにより自己の適性をしっかりと考え、進路選択ができるようにする。 | ①オープンキャンパスやインターンシップに積極的に参加したか。進路情報誌やインターネットを活用して進路を考えることができたか。 ②スタディーサポート生徒向け説明会を実施し、結果の活用方法を示した結果、生徒自らが活用することができたか。自分の性格や好みをきちんと把握できたか。 | ①夏休みを利用して、オープンキャンパスやインターンシップに積極的に参加した。また、進路情報誌やインターネットなどを活用して、自分の進路を考えることが概ねできるようになった。 ②スタディーサポートや実力テストの結果を受けて、説明会を実施し、振り返りを行うとともに、今後の学習に活用できるようにした。 | ①一部、進路情報誌やインターネットを活用して進路を考えることができていない生徒がいるので、具体的な活用方法を提示して、進路を考えさせるようにしたい。 ②スタディーサポートや実力テストの結果をより活用できるように、活用例を充実させたい。 | ①大学入試制度に係る混乱があったなかで学校からの指示で大過なく乗り切れたのはよかった。情報の活用方法をしっかり指導してほしい。 ②実力テストの結果をしっかりと活用させてほしい。受けっぱなしでは意味がない。 | ①オープンキャンパスなどに積極的に参加できたこと、大学入試制度に係る混乱を乗り切ったことは評価できる。自分の未来の可能性を広げるため生徒が自らの力を高める努力をするような指導が必要である。 ②実力テストの結果を活用させる指導を心がけることができた。そこからさらに自らの力を高める努力をするような指導が必要である。 | ①オープンキャンパス等の目的は生徒のチャレンジ精神を高揚するためでもあることを視野に入れ、そのうえで情報収集をさせることを目標とする。 ②実力テストの結果活用については、未来の可能性をひろげるために今後の学習に活用できる指導をすることを目標とする。 |
| 4 地域等との協働 | ①豊かな人間性を育むために、地域等の教育力を活用し、協働を推進する。 ②地域等に貢献し愛される学校づくりを行う。 | ①地域教育力の活用例を増やす。 ②ボランティア活動の参加者を増やす。 | ①授業、委員会、部活動を通じて、地域活動への参加を促し、地域へ貢献すると共に地域の教育力を活用し、生徒自身の成長を図る。 ②生徒に対して地域で実施される行事の連絡を徹底すると共に、積極的に参加するよう指導する。 | ①生徒が積極的に地域貢献に努めることができたか。地域とともに成長することができたか。 ②ボランティア活動への参加者が増えたか。 | ①1年生が行う地域貢献活動(海岸清掃)は、台風接近のため今年度は中止した。2・3年生の地域清掃は例年通り実施できた。 ②近隣地域で実施されたそうめん流し、スライムづくりなどの行事に生徒会役員だけでなく、一般の生徒も積極的に参加した。 | ①海岸清掃は天候に左右されることから、次年度から異なる方法での地域貢献活動を検討する必要がある。 ②生徒会役員以外の生徒の参加者が例年より増加した。さらに多くの生徒の参加を促していく。 | ①地域貢献活動は毎年行っていた。今年度は同窓会が文化祭等を通して生徒に働きかけをすることができた。 ②ボランティア活動への参加、回覧による地域への情報提供等地域との関わりを積極的に行っていった。 | ①同窓会とのつながりの中で多くの支援を受けることができた。さらに地域の教育力を活用することができるよう学校運営協議会と協力体制を作りたい。 ②ボランティア活動への参加があらゆる場面で増えてきた。さらに広く深く根付かせたい。生徒への周知・連絡方法は、工夫する必要がある。 | ①地域との協力体制を、学校運営協議会等を通してさらに強力なものにしていく。 ②生徒への周知・連絡を、教室掲示だけに限定せず、メールやホームページなどの活用を模索していく。 |
| 5 学校管理 学校運営 | ①信頼・期待される学校づくりを行うために、教育活動に対する意見を尊重し、事故・不祥事ゼロをめざす。 ②生徒の安全な学習環境の整備を行う。 | ①積極的に教育活動の公開を行い、保護者・地域からの意見を尊重した学校運営を行う。 ②生徒に命の大切さについての意識を向上させると同時に地域との協働を取り入れることで、安心安全な学校づくりを行う。 | ①「学校へ行こう週間」の公開授業に保護者、地域の方々の参加が増えるようホームページなどを通して案内を徹底する。 ②仮設校舎使用時における防災意識・美化意識の向上を、防災訓練や日常の清掃・ゴミ収集活動などを通じて全校に展開する。 ②いのちの授業を様々な教育計画の中に取り入れる。 | ①公開授業での参加者が前年度の人数を超えることができたか。 ②防災・美化に関する活動計画を委員の生徒を中心に実施し、全校生徒の意識向上が図られたか。 ②いのちの大切さについて意識が向上したか。 | ①「学校へ行こう週間」の来校者数は、昨年度とほぼ同数であった。来年度からインクルーシブ教育実践推進校に指定されたことから、支援学校の先生方の来校があった。 ②引き続き美化委員は通常のゴミ分別指導や防災訓練時の美化活動で良好な取り組みが見られ、防災委員も災害図上訓練や防災訓練などで積極的な取り組みが見られた。防災訓練は授業時間帯に津波災害想定避難経路確認と安否確認訓練に重点をおいて実施した。 | ①「学校へ行こう週間」に関しては、実施時期、日程等を検討し、来校者がさらに増える工夫が必要である。 ②近年想定外の災害が勃発する恐れがあることを、少しでも多くの教員・生徒に理解させ、学校全体の防災意識を高めたい。また、来年も耐震工事の進捗状況に対応した美化活動・防災活動の実施が課題となる。 | ①学校の様子を知らせる回覧ができてよかった。現在は津久井地区だけであるが、案内を広く行ってほしい。 ②全校生徒が防災意識を高めるためには年に一度の防災訓練では足りない。計画的に行なってほしい。また、地域との協働の訓練も考えてほしい。 | ①ホームページや地域回覧等、広報活動は明らかに成果をあげている。今後学校運営協議会の力を借りて回覧の地域を広げていき、本校の活動を伝えていきたい。 ②防災訓練を授業中にできたことは成果である。また、津波を想定した訓練も取り入れることができた。年間計画では年に2回なのに1回しかできていない。計画的に行う必要がある。 ②命の大切さを伝える取り組みを行うことができた。 | ①学校がアイデアを出して広報を進める。それにより地域の力が学校を支えていく形を作り、より良い連携をとっていくことを目標とする。 ②防災訓練に関しては年間計画の中に確実に組み込み、後回しにしない姿勢で取り組む。 ②命の大切さを伝える取り組みを今後も続けるが、現状維持ではなくさらに多くの場面で取り組みたい。 |